

「県民の期待に応える警察機能発揮のための施設整備」及び「周辺環境との調和」についての提案

# 「国際平和都市広島」にふさわしい県民の安全と安心の象徴となる「開かれた警察署」づくり

地域を守る警察庁舎としての機能を確実に発揮できることはもちろんのこと、国際化が進む広島市の特性を踏まえ、あらゆる人にとって訪れやすく、利用しやすい庁舎であることが重要と考えます。「親しみやすさ」と「堅牢」の共存を図り、防犯に対する意識を啓発する、地域とともに安全で安心なまちづくりを行う拠点となる警察庁舎を実現します。

## 敷地周辺状況に配慮した配置計画

① 配置の比較検討：敷地北側は住宅が並ぶ第1種住居地域であるため、計画に先立ち日影の検討に加え、下記の項目について庁舎を東西軸と南北軸に配置し比較検討を行いました。

配置	南北軸案		東西軸案	
	10m規制ライン 5m規制ライン	3時間 5時間	10m規制ライン 5m規制ライン	3時間 5時間
近隣配慮	建物長辺がマンションと正対視線の影響を受けやすい	○	建物長辺がマンションと正対しない	○
日射負荷	諸室が東西面に配置されるため西日の影響を受けやすい	○	西側が妻面のため、西日の影響を受けにくい	○
日影	北側隣地への影響が大きい	○	北側隣地への影響が少ない	○

図 5. 配置比較検討表

## ② 周辺環境を踏まえた土地利用計画

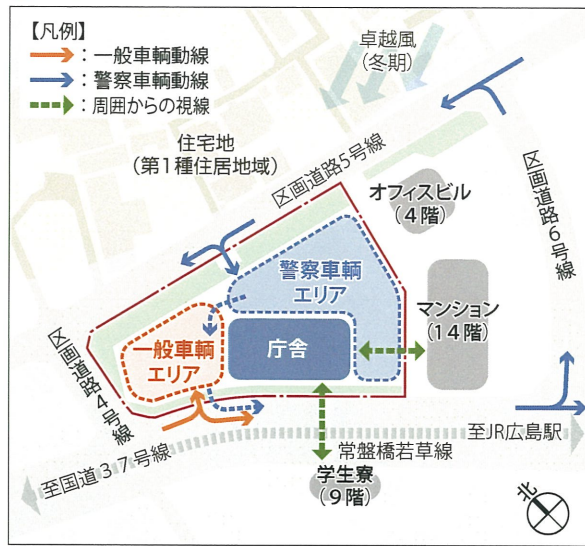


図 6. 車両動線とゾーニング



図 7. 歴史・文化軸になじむ北側の意匠



図 8. 警察とまちをつなぐ「インフォメーションウォール」 図 9. 周辺環境と調和する開かれた警察庁舎イメージ

サイズ：20cm×7.5cm＝150cm

## 【県民の期待に応える警察機能発揮のための施設整備】

### 時代の変化、警察機能の変化に対応できるフレキシビリティ

- ① 組織改変に柔軟に対応できるフレキシブルな執務空間：適切な奥行きをもった連続した整形の執務空間を確保することで、レイアウトの自由度を高めます。間仕切壁はすべて乾式化を図り、将来の組織改変にも柔軟に対応できる計画とします。
- ② 多目的に利用できる会議室の集約化：情報回線を整備した会議室を集約配置することで、重大事件発生時の事件対策室や災害時の災害対策室として、多目的に活用できる計画とします。
- ③ 取調室のフリーアドレス化：取調室の過半を集中して配置することで、利用状況に応じた合理的な運用ができる計画とします。
- ④ 収容人数の増減に対応する兼用利用可能な留置室：男女の留置エリアの間に兼用できる留置室を設け、男女比、成人少年の増減に柔軟に対応できる計画とします。

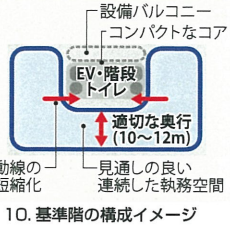


図 10. 基準階の構成イメージ

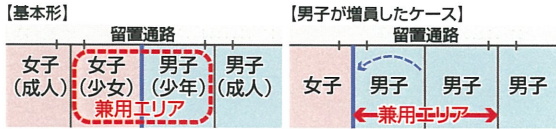


図 11. 留置室の柔軟性

### 秘匿性、プライバシーの確保

- ① 被害者へのプライバシーの配慮：相談室への動線は、人目にふれにくくするために、執務空間を介さない動線を確保します。
- ② 被疑者専用動線の確保：護送車の車庫を建物内に設け、車庫から被疑者専用エレベーターに直接入れる動線とすることで、被疑者のプライバシーの確保と逃走防止を図ります。
- ③ 警察車両と一般車両のエリアと動線の明確な分離：まちに開いた西側に一般車両のエリアを配置し、警察車両エリアと明確に分離します。また、警察車両エリアと一般車両エリアそれぞれに単独の出入口を設け、秘匿性と機動性に配慮した計画とします。
- ④ 非常時の出動に備えた複数の車両出入口：警察車両の出入口が何らかの原因で利用できなくなる非常事態に備えて、一般車両エリアを通り抜け、常盤橋若草線側へも出入りが可能な計画とします。

### セキュリティに配慮した階構成

- ① 明確な階構成による確実なセキュリティラインの構築：1階にワンストップに対応できる総合窓口と相談室を設け、一般来庁者の利用を1階に限定することで確実なセキュリティを構築します。

### 警察の特殊性(24時間業務等)に対応した施設づくり

- ① 警察機能を止めずに機器等の更新ができる設備計画：更新しやすい外部シャフト、機器のリプレイススペースとして倉庫を隣接し、相互に更新可能な機器の複数台設置。
- ② 空調のゾーニング：個別空調方式を採用し、24時間利用ゾーンと定時利用ゾーンの利用形態に応じた空調計画を行うことで、過度に負荷をかけることなく効率的に空調制御を行い、省エネルギー化やライフサイクルコストの縮減を図ります。

### 災害時の活動に柔軟に対応できる施設づくり

- ① 災害時に柔軟に機能転換できる施設づくり：2階の会議室・事件対策室は、情報端末を多数接続できる環境を整備し、災害時に災害対策室として機能できる計画とします。訓練室や道場は広域緊急援助隊の詰所としても活用します。
- ② ベースキャンプとなるエントランスホール：1階エントランスホールは、集結した広域緊急援助隊等の打合せや待機場所への機能転換ができるように電源や情報回線を設けます。

### BCPとエコを両立させた計画

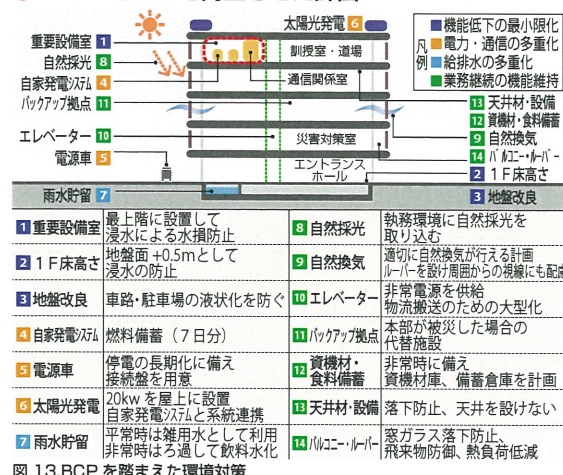


図 13. BCPを踏まえた環境対策

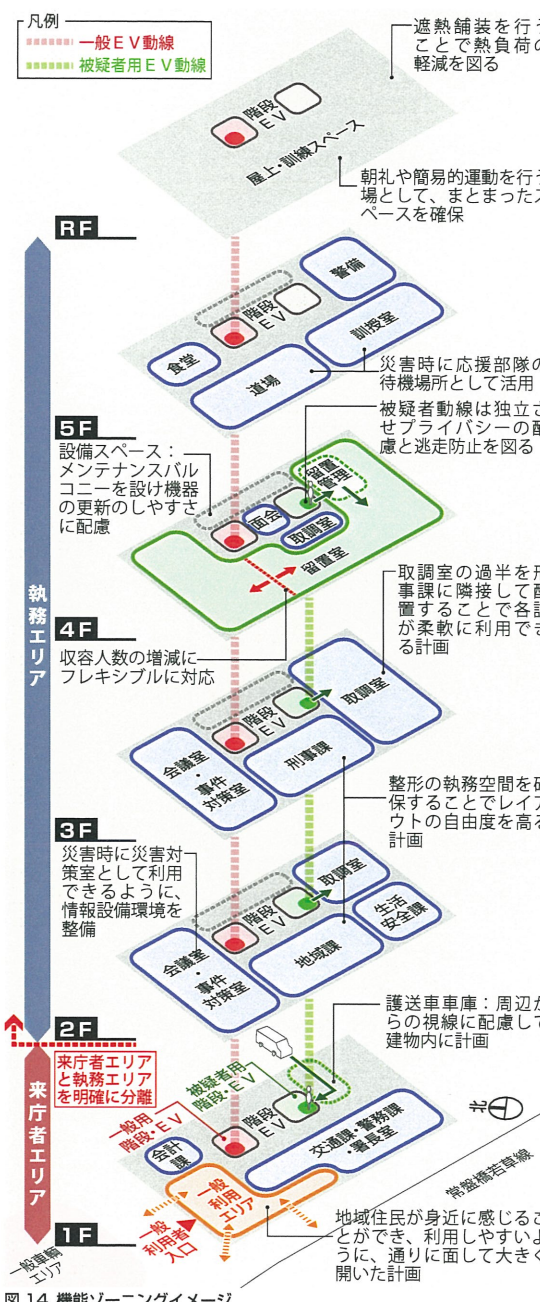


図 14. 機能ゾーニングイメージ

## 【周辺環境との調和】

### 地域に根差したまちの「交番」のような身近な警察署

地域に密着したまちの「交番」のように、住民と警察署員がコミュニケーションを図れ、より気軽に相談や情報提供などができ、警察協議会を円滑に行うことができる開かれた警察署を実現するため、以下の提案を行います。

### ① 地域住民の安全で安心な生活をサポートする

「けいさつギャラリー」：一般利用者が自由に入ることができるエントランスホールに、情報交流を促進し、相談機能を充実させる「けいさつギャラリー」を計画します。ギャラリーには、以下の機能を導入することで、地域の防犯意識を高めるきっかけをつくります。また、利用者の利便性に配慮して「ワンストップサービス」ができる窓口を検討します。

- ① 防犯力・防犯意識を高める「防犯対策情報コーナー」
- ② 防犯に対する啓蒙活動の拠点となる「地域交流ワークスペース」
- ③ 暮らしの不安を気軽に相談できる「簡易相談コーナー」

図 15. 相談機能を充実させる「けいさつギャラリー」

### 周辺環境の特性に合わせた調和の考え方

- ① 建築工事発生土を利用した築山(緑地のマウンド)を計画し、周囲から駐車場が見えにくい計画とします。また、鶴羽根神社を見通せる歴史・文化軸と大通りをつなぐ「街かどオープンスペース」を散策路と一体的に整備し、連続的なまちなみの形成を図ります。
- ② 駐車場の舗装は保水性のある舗装とすることで、気化熱による路面温度の上昇を抑制させます。

図 18. 周辺環境に調和した配置計画イメージ



図 19. 南北断面構成イメージ

### 二葉の里を背景とした周辺環境と調和した警察署づくり

敷地周辺のもつ特性を確実に読み取り、それぞれの面に適した環境の調和を図ります。警察機能を確実に満たすことを前提とした上で、各方位のもつ環境負荷への配慮を講じ、「国際平和都市広島」の陸の玄関口にふさわしい街並みを形成します。

### ① 警察機能・環境・景観に配慮した外装のデザイン：

- 【警察機能】：警察の秘匿性の高い機能が入る2～5階に底と縦ルーバーを設け、隣接するマンションからの視線を制御します。
- 【環境】：水平底と縦ルーバーにより日射による熱負荷を最小限に抑制します。
- 【景観】：敷地の北側に分布する神社と調和する、歴史的建物のモチーフとして縦格子ルーバーを採用することで、歴史・文化軸を形成する風景との連続性に配慮します。

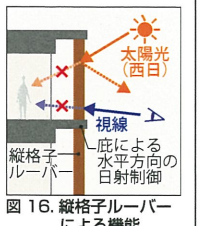


図 16. 縦格子ルーバーによる機能

図 17. 縦格子ルーバーイメージ



図 18. 周辺環境に調和した配置計画イメージ

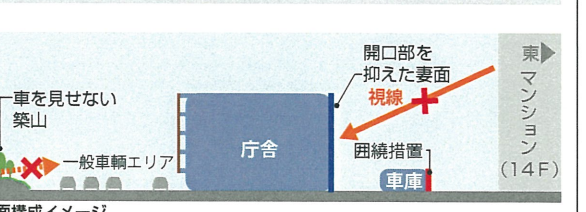


図 20. 東西断面構成イメージ

(注) 用紙は、日本工業規格A列3とする。